

【テーマ6 学校教育を取り巻く環境の変化に応じた効果的な育成・研修の実施】

団体名：株式会社浜銀総合研究所

「教員の資質能力の育成等に関する調査研究」

調査の概要

◆課題認識

- 令和3年3月12日に中央教育審議会に対して諮問がなされたように、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師像と教師に求められる資質能力、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の在り方、教師を支える環境整備等について検討が求められている。
- 学校教育を取り巻く環境の変化が様々な形で生じている中で、教員の在り方についても様々な議論がなされているが、議論や施策を推進するために必要と考えられるデータ、例えば、現在どのような属性の人が各年齢層において教職に就いているのか、求められている資質能力を身に付けられている状況にあるのか等の実態は必ずしも把握されているわけではない。

◆調査研究の目的

- 現職教員を対象に、教師の属性や、資質能力の現状や育成の状況に関して体系的に把握できる項目を設定したアンケート調査を全国規模で実施する。
- 中央教育審議会に対して諮問がなされている各テーマに資する調査データを得る。

◆調査研究の方法・対象

- 全国からサンプリングを行い、幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の現職教員を対象とした調査を実施した。ウェブ上に設置したアンケート回答画面にアクセスいただき、回答を得た。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①有識者との連携

- アンケート調査内容の検討（調査票設計）に当たっては、有識者と連絡・相談をしながら検討を進め、また、先行調査等も参照し、様々な観点からの検討を行った。

②大規模での調査実施、他の調査との比較可能性の検討

- 全体としての実態把握に加えて、年代別の分析や、その他の要因別の傾向の違いの有無等についても分析できるよう、規模・対象者の検討を行った。また、「社会階層と社会移動全国調査」の結果と比較可能な項目を多く設けることにより、現在教師になっている者がどのような特性を持つ者であるのか、分析できるよう検討した。

◆成果

- 各校種計12,555件の有効回答を得た。対象には管理職も含み、また、講師や臨時的任用の方などを含んでおり、様々な形で比較分析等が可能である。
- 育成・研修の在り方等、今後の施策の推進・検討等が行えるような、基盤となるデータを得ることができた。

今後の課題

◆有識者と連携した分析の実施・推進

- 得られたデータを基に、分析を進める。分析により、どのような者が比較的高く資質能力を身に付けられているのか等を明らかにする。